

『子育て期における仕事と家庭の調和に関する調査』

—父親役割意識と家事・育児参加の実態—

文部科学省委託事業「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」プロジェクト

(代表 永瀬伸子)

調査の目的：幼稚園、小学生および中学生の子を持つ父親に対して、政策としてのワーク・ライフ・バランスが育児期の子どもをもつ父親にどのくらい知られているか、父親の役割をどのように認識しているか、実際にどの程度、子育てや家事に参加しているのかについて尋ねる。さらに、妻のライフコースの現実と理想、妻のライフコースに対する夫の考え方、妻の就労に対する意識等についても調査する。

調査対象：都内幼稚園 年中組の父親
都内小学校 1年生、4年生の父親
都内中学校 1年生、2年生の父親

調査実施時期：平成22年1月

調査方法：学校を通じた配布、郵送による回収

回収率：幼稚園（年中組）	60 配布	52 回収	}	回収率 86.7%
小学校（1年・4年）	246 配布	109 回収		
中学校（1年・2年）	241 配布	89 回収		
計	487 配布	198 回収		回収率 38.8%

1. 調査票の回収について

父親向け調査では、幼稚園、小学校、中学校あわせて547通を配布した。その結果、250通の回答があった。回収率は全体で45.8%だった。

2. 回答者の基本属性について

250名の父親の年齢や勤務時間などについては以下の通りである。

- ◇ 平均年齢 43.7歳（ご回答範囲：32歳～60歳）
- ◇ 現在の平均的な一日の勤務時間
10.2時間（ご回答範囲：0時間～16時間）

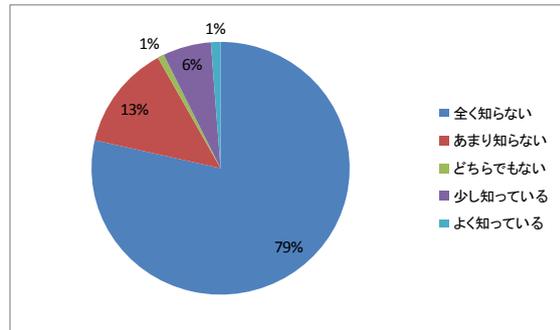
3. 調査結果

(1) 「ワーク・ライフ・バランス」や「カエル・ジャパン」の認知度

本プロジェクトは、ワーク・ライフ・バランスが実現する社会を目指して行われているが、政策としてのワーク・ライフ・バランスが育児期の子どもをもつ父親にどのくらい知られているかをたずねた。

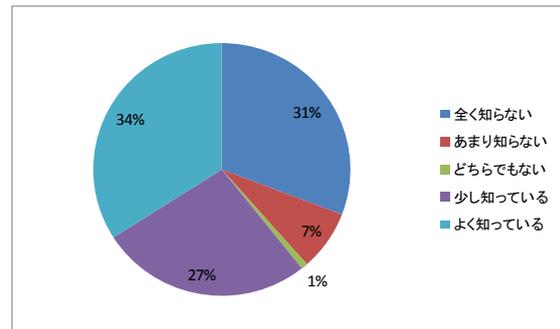
●「あなたは『カエル、ジャパン』という言葉を知っていますか。」

「カエル、ジャパン」という言葉は、79%が「全く知らない」と回答している。



●「あなたは『ワーク・ライフ・バランス』という言葉を知っていますか。」

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉は、「全く知らない」は31%にとどまり、「よく知っている」34%、「少し知っている」27%とこちらの言葉の方が認知度は高い。しかし、ワーク・ライフ・バランスという言葉を知らない人も31%の回答があったことから浸透にはもう少し時間が必要である。

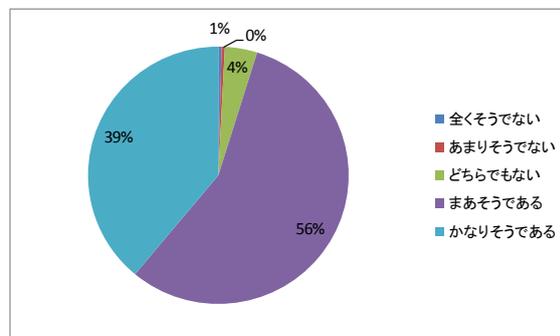


(2) 子育て期の父親の父親役割意識

ここでは、子育て期の父親の父親役割意識がどのようなものであるかについて、いくつかの側面から質問した。

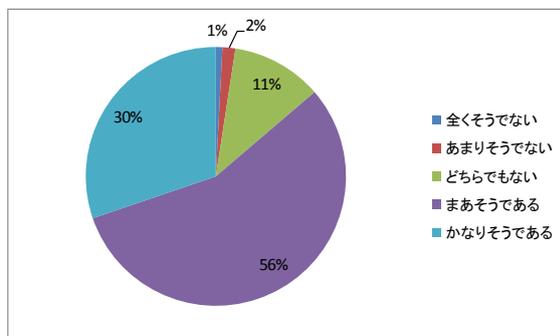
●「子どもに良い環境を整えるのは父親としての役割である」

この質問については「まあそうである」と「かなりそうである」で95%を占め、父親が子どもにより環境を与える役目であるとほとんどの人が意識していることがわかった。



●「父親として子どもの成長のためなら何でもする」

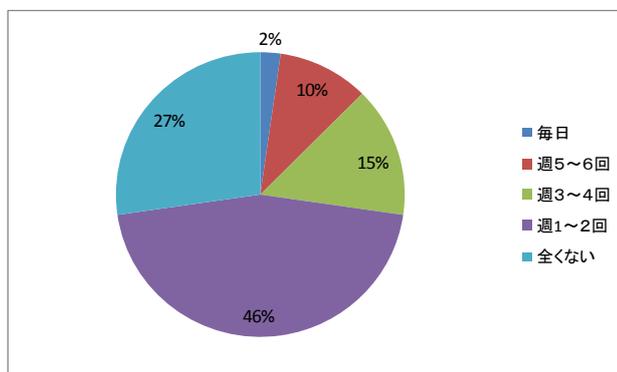
一方この質問については、「父親として子どもの成長のためなら何でもする」では「まあそうである」と「かなりそうである」で86%となり、環境を整えることに比べると少ない。このことから、長時間勤務で子どもとの時間が取れないことや母親との



役割分担から父親は「何でも」やるのではなく、自身の「役割」を意識されている可能性があると考えられる。

(3) 子育て参加の実際

実際に父親がどの程度の頻度で子育てにかかわっているかについて、未就学児の育児参加と、就学児以降の子育て参加についてたずねた。これらの質問内容は、いずれも毎日する必要があると考える。



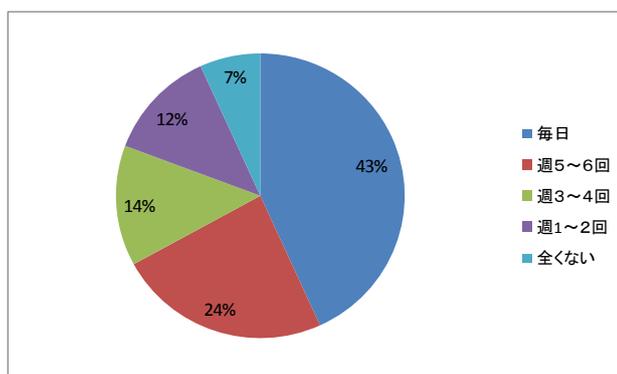
●未就学児の育児参加：「子どもの

着替えや身支度の世話をする」(頻度について) 未就学児をもつ父親の回答では、

「子どもの着替えや身支度の世話」は週1~2回が46%と最も多く、休日などに行なうという様子がうかがえた。一方で週3~4回、5~6回、毎日という回答をあわせて27%となり、約3割の父親が平日も積極的にかかわっていることがわかった。

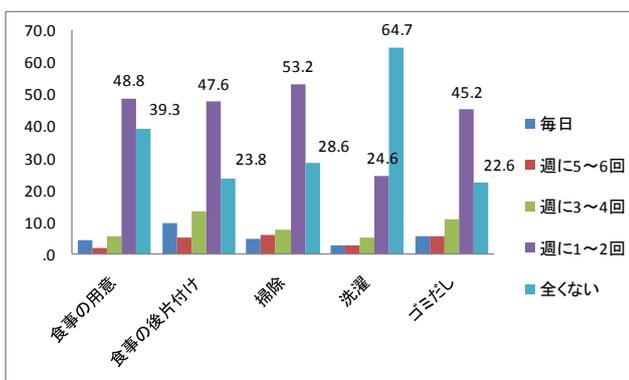
●就学児以上の子育て参加：「子どもの勉強や宿題、習い事の面倒をみている」(頻度について)

就学児をもつ父親の回答では「子どもの勉強や宿題、習い事の面倒をみている」は、43%が毎日、24%が週5~6日とあわせて67%の父親が日常的に子どもの学習や習い事に関わっていることがわかった。



(4) 父親の家事参加の実際

子育てについては、多くの父親が日常的に関わっていることが分かったが、家事については、父親が「食事の用意」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」「ゴミだし」についてどの程度の頻度でかかわっているかについてたずねた。



結果は、「洗濯」以外の家事については、週に1~2回、おそらく土

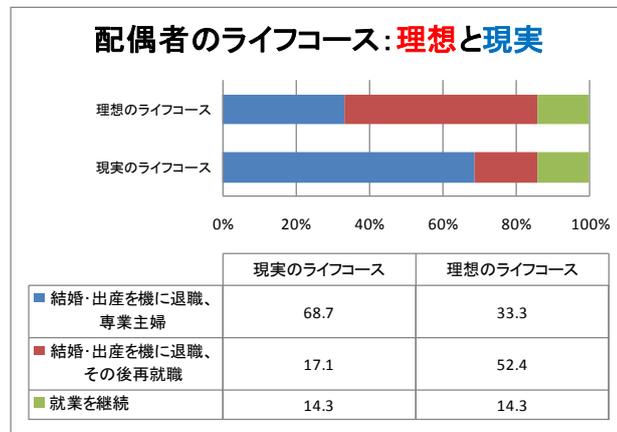
日は家事をしている父親が約半分いることが分かった。「洗濯」については、約65%の父親が全くしていないと回答している。

長時間労働が、家事・育児にどのように影響しているかについては、勤務時間が短い父

親ほど家事頻度が高くなるという傾向がみられた。しかしながら、家事にかかわる頻度だけを見ると、もっとも頻度が高いのは週に1~2である。したがって、長時間労働（平均勤務時間約10.2時間）となっている平日には、なかなか父親が家事分担ができない状況にあると推測される。

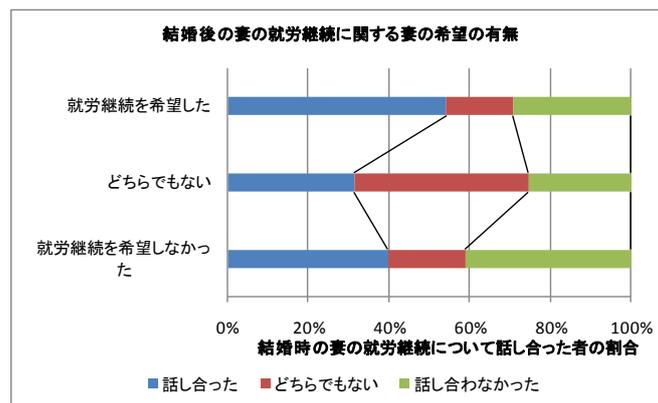
(5) 妻の就労についての夫の意識

妻のライフコースについて、夫に理想を尋ねたところ、自分にとっての理想の妻は就業継続（結婚・出産後も働き続けること）と考える夫は14%で、再就職（結婚や出産を機に退職その後再就職）と考える夫が約5割、専業主婦が3割であった。現実には妻の14%が就業継続していた。



(6) 妻のライフコースについての夫婦間の話し合いの有無

結婚するときに、妻が働き続けるかどうかについて、妻と話し合いを持ったかどうかを尋ねた。妻自身が就業継続を望んでいる場合には、妻と話し合った夫は約半数で、話し合っていない夫よりやや多いことがわかった。妻が就業継続を希望していない場合や、どちらでもないと回答した場合は、妻と話し合いを持った夫の割合はやや下がっていた。



本研究は本大学の倫理委員会の承認を受けており、個々人の自発的な郵送回収をお願いした。収集したデータ結果の収集したデータは、個人情報の取り扱いや保管など、厳重に注意を払っている。